

区分	科目		1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤	
必修科目	作曲実技Ⅰ	作曲実技Ⅰ(二重奏曲)									●		●	●		
		作曲実技Ⅰ(室内楽曲)									●	●	●	●		
		作曲実技Ⅰ(声楽作品)									●	●	●	●		
		作曲実技Ⅰ(管弦楽曲)									●	●	●	●		
		協奏実技Ⅰ(卒業作品)									●	●	●	●		
		作曲実技Ⅰ(学内演奏)									●		●	●		
	作曲実技Ⅱ	作曲実技Ⅱ(和声)									●	●		●		
		作曲実技Ⅱ(フーガ)									●	●		●		
	作曲理論	協奏理論(厳格対位法とフーガ)									●	●		●		
		作曲理論(楽曲解析)									●	●	●	●		
		作曲理論(管弦楽法(実習))									●	●		●		
			作曲・音楽制作ソフトウェア概論								●	●				
			副科ピアノⅠ								●	●				
			ソルフェージュA								●	●				
	専門科目	作曲研究	作曲研究(和声研究)									●	●		●	
			作曲研究(フーガ研究)									●	●		●	
			作曲研究(コンピュータの援用)									●	●		●	
			作曲研究(管弦楽法(分析))									●	●		●	
作曲研究(楽曲研究)											●	●	●	●		
作曲研究(現代音楽技法)											●	●	●	●		
作曲研究(音楽と言語)											●	●	●	●	●	
選択科目			副科ピアノⅡ								●	●				
			ソルフェージュB								●	●				
			外国語Ⅱ									●	●		●	
			西洋音楽史								●	●		●		
			副科指揮法											●		
			副科独唱											●		
			副科合唱											●		
			副科弦楽器											●		
			副科管楽器											●		
			副科打楽器											●		
			副科邦楽											●		
共通科目		一般教養科目										●	●			
		専門基礎科目									●	●	●			
		外国語科目										●	●		●	

演奏の現場と直結した教育

作曲科では、作品が演奏される多くの機会が与えられています。演奏の現場との直結した教育を特徴としていて、提出作品は、二重奏・声楽作品が演奏により審査されます。その他にも、2年次提出の室内楽作品6曲程度が「藝大生による木曜コンサート」(旧東京音楽学校奏楽堂)で演奏され、また3年次提出の管弦楽作品4曲が「モーニング・コンサート」(奏楽堂)、首席卒業作品が「新卒業生紹介演奏会」(奏楽堂)で藝大フィルハーモニア管弦楽団により公開演奏されます。また、近年では下記の著名な作曲家、演奏団体を招聘しての特別講座を開催し、今後も継続を予定しています(作曲家:トリスラン・ミュライユ、ハリソン・パートウィスル、カイヤ・サーリアホ、フィリップ・マヌリ、ハインツ・ホリガー、フランチェスコ・フィリディ、アラン・ゴーサン、湯浅謙二、篠原真、松平頼暁、近藤謙、望月京。演奏団体:アンサンブル・イティネレル、アルディッティ弦楽四重奏団、アンサンブル・アンテルコンタンポラン等)。さらに、ジョルト・ナジ特別招聘教授の指揮による大編成アンサンブル作品の作曲科ワークショップ、フランス国立音響音楽研究所(IRCAM)研究者等によるワークショップの中で学生の作品が演奏されます。こうした実践的な経験を経て、プロフェッショナルな道程へと進んでゆくカリキュラムです。

・作曲専攻

- 1.実技Ⅰ 1年次:二重奏(ピアノを含む)作品、2年次:室内楽曲、3年次:声楽曲および管弦楽曲、4年次:卒業作品および奏楽堂で公開演奏される学内演奏作品(いずれも編成自由)の提出。
- 2.実技Ⅱ 1年次:和声および厳格対位法とフーガ、2年次:フーガからなる伝統的音楽書法の習得。
- 3.1年次:楽曲解析(分析)、作曲・音楽制作ソフトウェア概論、2年次:管弦楽法(実習)は必修。また2年次より、作曲研究として「音楽と言語」から「コンピュータの援用」のように、歴史的なものから今日的技法に至る科目が選択必修。

・作曲、エクリチュール専攻の各年次カリキュラム

- 1年次:作曲実技Ⅰ(二重奏作品)、作曲実技Ⅱ(和声)、作曲理論(厳格対位法とフーガ、楽曲解析)、作曲・音楽制作ソフトウェア概論、副科ピアノ、ソルフェージュ [選択科目] 西洋音楽史など  
 2年次:作曲実技Ⅰ(室内楽曲)、作曲実技Ⅱ(フーガ)、作曲理論(管弦楽法(実習))、副科ピアノ、ソルフェージュ [選択科目]副科実技(独唱、弦楽器、管打楽器、邦楽)など  
 3年次:作曲実技Ⅰ(作曲専攻では声楽曲および管弦楽曲、エクリチュール専攻では歌曲および合唱曲)[選択科目]作曲研究(和声、フーガ、コンピュータの援用、管弦楽法(分析)、楽曲研究、現代音楽技法、音楽と言語)、副科実技など  
 4年次:作曲実技Ⅰ(卒業作品、学内演奏) [選択科目]作曲研究(和声、フーガ、コンピュータの援用、管弦楽法(分析)、楽曲研究、現代音楽技法、音楽と言語)、副科実技など

○その他(国際交流、留学生の受入れ、卒業後の進路など)

国際交流と留学生の受け入れにあたっては、日本の伝統音楽と近現代の西洋音楽との接点としての作曲科の位置づけを踏まえて、今後の方向性を求めています。作曲科の卒業生・修了生は、多方面に渡り日本の音楽界の重要な人材として、国内外で多方面にわたって活躍しています。

区分	科目		1年次		2年次		3年次		4年次		DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門科目	必修科目	作曲実技 I	作曲実技 I (二重奏曲)								●	●				
			作曲実技 I (室内楽曲)								●	●				
			作曲実技 I (声楽作品)指定されたテキストによるピアノ伴奏歌曲									●	●			
			作曲実技 I (声楽作品)対位法的合唱作品									●	●			
			作曲実技 I (卒業作品)									●	●			
			作曲実技 I (学内演奏)									●	●			
	作曲実技 II	作曲実技 II (和声)									●	●				
		作曲実技 II (フーガ)									●	●				
		作曲理論	作曲理論(厳格対位法とフーガ)									●	●			
			作曲理論(楽曲解析)									●	●			
			作曲理論(管弦楽法(実習))									●	●			
		作曲・音楽制作ソフトウェア概論													●	
	副科ピアノ I										●					
	ソルフェージュA										●			●		
	選択科目	作曲研究	作曲研究(コンピュータの援用)												●	
			作曲研究(管弦楽法(分析))												●	
			作曲研究(楽曲研究)											●		●
			作曲研究(現代音楽技法)												●	
			作曲研究(音楽と言語)												●	
		副科ピアノ II										●				
ソルフェージュB											●	●		●		
外国語 II												●	●		●	
西洋音楽史														●		
副科指揮法														●		
副科独唱														●		
副科合唱														●		
副科弦楽器														●		
副科管楽器														●		
副科打楽器													●			
副科邦楽													●			
共通科目	一般教養科目											●	●			
	専門基礎科目											●	●			
	外国語科目											●	●		●	

演奏の現場と直結した教育

作曲科では、作品が演奏される多くの機会が与えられています。演奏の現場との直結した教育を特徴としていて、提出作品は、二重奏・声楽作品が演奏により審査されます。その他にも、2年次提出の室内楽作品6曲程度が「藝大生による木曜コンサート」(旧東京音楽学校奏楽堂)で演奏され、また3年次提出の管弦楽作品4曲が「モーニング・コンサート」(奏楽堂)、首席卒業作品が「新卒業生紹介演奏会」(奏楽堂)で藝大フィルハーモニア管弦楽団により公開演奏されます。また、近年では下記の著名な作曲家、演奏団体を招聘しての特別講座を開催し、今後も継続を予定しています(作曲家:トリストラン・ミュライユ、ハリソン・パートウィスル、カイヤ・サーリアホ、フィリップ・マヌリ、ハインツ・ホリガー、フランチェスコ・フィリディ、アラン・ゴースン、湯浅謙二、篠原真、松平頼暁、近藤謙、望月京。演奏団体:アンサンブル・イティネレル、アルディッティ弦楽四重奏団、アンサンブル・アンテルコンタンポラン等)。さらに、ジョルト・ナジ特別招聘教授の指揮による大編成アンサンブル作品の作曲科ワークショップ、フランス国立音響音楽研究所(IRCAM)研究者等によるワークショップの中で学生の作品が演奏されます。こうした実践的な経験を経て、プロフェッショナルな道程へと進んでいくカリキュラムです。

・エクリチュール専攻 : 西洋の伝統的音楽書法(和声、対位法、フーガ)の技術的修練を経て、時代及び大作作曲家の個人様式を踏まえ、それに準じたエクリチュール作品を提出します。

- 1.実技 I 1年次:様式和声による二重奏(ピアノを含む)作品、2年次:対位法的様式による三~四重奏作品、3年次:指定されたテキストによるピアノ伴奏歌曲および対位法的合唱作品、4年次:与えられた主題によるピアノ五重奏作品(フーガを含む)および学内演奏作品(編成自由)の提出
- 2.作曲専攻に準ずる。
- 3.作曲専攻に準ずる(管弦楽法は3年次必修)。

・作曲、エクリチュール専攻の各年次カリキュラム

- 1年次:作曲実技 I (二重奏作品)、作曲実技 II (和声)、作曲理論(厳格対位法とフーガ、楽曲解析)、作曲・音楽制作ソフトウェア概論、副科ピアノ、ソルフェージュ [選択科目] 西洋音楽史など
- 2年次:作曲実技 I (室内楽曲)、作曲実技 II (フーガ)、作曲理論(管弦楽法(実習))、副科ピアノ、ソルフェージュ [選択科目]副科実技(独唱、弦楽器、管打楽器、邦楽)など
- 3年次:作曲実技 I (作曲専攻では声楽作品および管弦楽作品、エクリチュール専攻では歌曲および合唱曲)[選択科目]作曲研究(和声、フーガ、コンピュータの援用、管弦楽法(分析)、楽曲研究、現代音楽技法、音楽と言語)、副科実技など
- 4年次:作曲実技 I (卒業作品、学内演奏) [選択科目]作曲研究(和声、フーガ、コンピュータの援用、管弦楽法(分析)、楽曲研究、現代音楽技法、音楽と言語)、副科実技など

○その他(国際交流、留学生の受入れ、卒業後の進路など)

国際交流と留学生の受け入れにあたっては、日本の伝統音楽と近現代の西洋音楽との接点としての作曲科の位置づけを踏まえて、今後の方向性を求めています。

作曲科の卒業生・修了生は、日本の音楽界の重要な人材として、国内外で多方面にわたって活躍しています。

大学院作曲専攻は、学部と同様に作曲研究分野とエクリチュール（和声・フーガ等音楽書法）研究分野により構成されています。修士課程では、両分野とも作曲技法等のさらなる研究を行い、演奏審査作品、修了作品、修士論文の提出が義務付けられます。さらに、2021年度より必修化された、コンピュータを援用した作品の制作も学ぶことが出来ます。修士課程から博士後期課程への一貫した教育のもとに、研究をより深めることが推奨されます。

修士課程における優れた管弦楽作品は、隔年開催の「藝大 21 創造の杜・藝大現代音楽の夕べ」にて藝大フィルハーモニア管弦楽団により演奏されます。

1. 修士1年次提出作品（編成自由）の演奏審査。
2. 修了作品の提出と口述試問。作曲研究分野とエクリチュール（和声、フーガ等音楽書法）研究分野からなり、作曲実技演習のほか、2021年度入学生より必修化されたコンピュータ音楽実技演習では、今日的な水準でコンピュータを援用した作品の制作も学ぶことができます。
3. 音楽作品、音楽技法、音楽理論等に関する修士論文の提出。特に外国語による基本文献の理解、自作の英語プレゼンテーション等、語学教育が重視され、修士課程から博士後期課程への一貫した現代音楽研究が推奨されます。修士課程における優れた管弦楽作品は、隔年開催の「藝大 21 創造の杜 藝大現代音楽の夕べ」で演奏されます。

○その他（国際交流、留学生の受け入れ、卒業後の進路など）

国際交流と留学生の受け入れにあたっては、日本の伝統音楽と近現代の西洋音楽との接点としての作曲科の位置づけを踏まえて、今後の方向性を求めています。

作曲科の卒業生・修了生は、日本の音楽界の重要な人材として、国内外で多方面にわたって活躍しています。